

平成 2 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立昭和中学校

平成 2 6 年 4 月

大阪市立昭和中学校 平成 26 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果を達成することができた。一方、家庭での自主学習習慣の定着に課題を残した。
- 命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を確保するため、道徳教育や教育相談活動のさらなる充実を図る必要がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子の平均記録は全ての項目において全国平均を上回ったものの、男子の平均記録は 50m 走と立ち幅跳び以外は全国平均を下回り課題を残した。望ましい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる教育を家庭・地域と連携しながら推進する必要がある。
- 学校教育 ICT 活用事業 (平成 25～26 年度) のモデル校として、研究と実践に一定の成果をおさめることができた。平成 26 年度は、すべての教科において公開研究授業を行い、広く全市に「スタンダードモデル」を普及させることが課題である。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している (どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある (どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている (どちらかといえば、努めている)」と答える保護者の割合を平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている (どちらかといえば持っている)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある (どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる (どちらかといえば対応してくれる)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている (どちらかといえば、知らされている)」と答える保護者の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 100%にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、平成 24 年度より向上させる。（ガバナンス改革関連）

【視点 教職員の I C T活用能力の向上】

- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C Tを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C Tを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- 平成 26 年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート（5 月・12 月実施）の各項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、5 月実施分より 12 月実施分において向上させる。
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を 80% 以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、80% 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85% 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、50% 以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80% 以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 90% 以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 26 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、100% にする。（ガバナンス改革関連）

【視点 教職員の I C T活用能力の向上】

- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C Tを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 26 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C Tを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100%にする。（マネジメント改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

視点ごとに定めた年度目標のうち、いくつかは定めた数値に届かなかったものの、総じて目標は達成できている。とりわけ全国学力・学習状況調査（国語 A・B、数学 A・B）の平均正答率ならびに全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力総合点は、大阪市ならびに全国の数値を上回っており、学力・基礎体力ともに一定の水準を達成している。以下視点ごとに、次年度以降に改善を要することがらについて具体的方策とともに列挙する。

【視点：学力の向上】

- ・自主学習習慣の定着に課題がみられるものの、学年進行にともない改善の傾向がみられる。入学時から家庭と密に連携し、予習・復習にきちんと取り組むことができる生徒の育成に努める。また学校元気アップ地域本部と連携し、自学の機会を提供する。

【視点：道徳心・社会性の育成】

- ・本校の教育相談体制が、生徒の不安や悩みの解決に答えきれていない面がある。教職員がカウンセリングマインドをもって相談にのぞめるよう、研修の充実に努める。
- ・道徳の教科化を見据え、次年度以降の道徳の時間について良質な読み物資料の活用を柱とした指導方法の工夫と改善を図り、生徒の道徳的価値の内面化を図る。

【視点：健康・体力の保持増進】

- ・食育の観点からバランスのとれた昼食をとることの意義について生徒に丁寧に指導する。特に平成 28 年度の給食完全全員喫食制移行を見据え、平成 27 年度の重点課題に位置づける。

【視点：教職員の I C T活用能力の向上】

- ・校務の I C T化を図り、校務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間の増加に努める。

大阪市立昭和中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連） ○平成26年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実（理科）」に係る児童アンケート（5月・12月実施）の各項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、5月実施分より12月実施分において向上させる。（カリキュラム改革関連） ○平成26年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。（カリキュラム改革関連） ○平成26年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【自主学習習慣の確立】 放課後等に自主学習時間を設定し、地域コーディネーターやボランティアと協力して、生徒の自主学習を支援する。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連） 指標 定期テスト前に、自主学習会をそれぞれ3日以上開催する。 ・学生ボランティアの支援を受けて、土曜学習会を学期に1回以上、また夏季休業期間中に自主学習会を3日以上開催する。	A
取組内容②【思考力・判断力・表現力の育成】 思考力・判断力・表現力など言語力の育成に向けた指導を通して、指導と評価の一体化を推進する。（カリキュラム改革関連） 指標 全教科において、思考力・判断力・表現力を育成する取組を、計画通りに実施する。	B
取組内容③【習熟度別少人数授業の実施】 生徒の学習到達度を把握し、生徒にわかる喜びを味わわせ、学ぶ意欲を育てる学習など個に応じた指導を工夫する。（カリキュラム改革関連） 指標 対象教科において、習熟度別少人数授業を年間総授業時数の33%以上設定する。	B
取組内容④【小中一貫した教育の推進】 9年間を見通した教育課程を編成し、中1ギャップの解消に努める。（カリキュラム改革関連） 指標 月に1回は、校区小学校と合同で教育課程編成に係るコーディネーター会議を開催する。	C

<p>取組内容⑤【特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、自立と社会参加に向けて、個に応じた指導を充実する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 月に1回は、個に応じた指導について共通理解を図るとともに、年に1回以上指導方法に関わる校内研修会を開催する。</p>	
<p>取組内容⑥【公開授業の実施】</p> <p>授業改善の取組みを保護者・地域に周知する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 月に1回以上、授業を公開する。</p>	
<p>取組内容⑦【授業研究を伴う校内研修の充実】</p> <p>「学び続ける教員サポート事業」に則り、すべての対象教員が公開研究授業を実施し、指導力の向上に取り組む。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 学期に1回以上実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「授業の予習や復習をしていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答えた生徒の割合が1年生の41%、2年生の42%、3年生の59%を数え、学年進行にともない自学・自習の習慣が着実に身に付いていることがわかる。全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答えた生徒の割合は全国では50.4%となっている。校内アンケートを比較すると、3年生は上回っているものの、1・2年生は下回っている。 ・「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実（理科）」に係る児童アンケートにおける「理科の授業では、発言や手を挙げるなど、積極的に参加している。」の項目について、「とてもそう思う（そう思う）」と答えた児童の割合が、実施前（22.6%）と実施後（64.1%）で大幅に改善されており、授業に意欲的に参加する態度を養うことができ、中学校入学後の教育との円滑な接続の基盤を形作ることができた。 ・校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた生徒の割合が79%を数え、目標を達成できた。 ・校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答えた保護者の割合が79%に留まり、1ポイント目標に届かなかった。
今後への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校元気アップ地域本部と連携し、定期テスト前や土曜日に計画通りに学習会を実施するとともに、英語検定準会場に登録し、生徒に英検受検の機会を提供することを通して、生徒の自主学習習慣の定着を図り、1年生の段階から予習・復習に取り組みことのできる生徒を育てる。 ・全国学力・学習状況調査（国語A・B、数学A・B）の平均正答率はすべて全国平均ならびに大阪市平均を上回っている。今後さらなる授業改善に取り組み、ホームページや学校だより等による情報発信や公開授業の機会を捉えて、本校生徒の学力の実態について保護者に丁寧に報告し、適正な評価を得るよう努める。

大阪市立昭和中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○平成26年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている(どちらかといえば持っている)」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成26年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成26年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる(どちらかといえば対応してくれる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成26年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている(どちらかといえば、知らされている)」と答える保護者の割合を、85%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成26年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、50%以上にする。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)</p> <p>○平成26年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる(どちらかといえば取り組んでいる)」と答える生徒の割合を、80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【道徳教育の充実】</p> <p>人間としての生き方を考えさせる道徳教育を、道徳教育推進教師を中心に、全教職員の共通理解のもとで推進する。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 学期に1回以上、道徳の時間の指導に関する校内授業研修を行い、共通理解を図る。</p>	B
<p>取組内容②【道徳教育の充実】</p> <p>生徒の内面に根ざした道徳性を育成するため、豊かな体験活動を推進する。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 全学年を対象に、鑑賞行事を年に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【キャリア教育の充実】</p> <p>社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、職業講話や職業体験学習など、子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 全ての学年において、年に1回以上、キャリア教育を実施する。</p>	B

<p>取組内容④【いじめへの対応】</p> <p>「学校いじめ防止基本方針」に則り、すべての教職員が「いじめ」を見抜く鋭敏な感覚を養い、事案の未然防止および早期解決に努める。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 月に1回以上、いじめ防止に関する委員会を開催する。</p>	B
<p>取組内容⑤【防災教育の推進】</p> <p>災害発生時に支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)</p> <p>指標 地域関係諸機関と連携した防災教育を、年に1回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容⑥【美化・環境整備】</p> <p>生徒・保護者・教職員が、潤いのある校内環境を整えることを通して、情操豊かな生徒を育成する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 生徒・保護者・教職員による校内緑化活動を、年に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容⑦【部活動の充実】</p> <p>部活動を通して、役割と責任を自覚し、協力し合える態度を身につけさせるとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 部活動入部率を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答えた生徒の割合が68.4%に留まり、全国平均74.3%に5.9ポイント届かなかった。ただし「持っている」と回答した生徒の割合は45.6%に達し、全国平均46.0%に肉薄した。 ・校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において、「ある（どちらかといえばある）」と答えた生徒の割合が90%に達し、目標を達成することができた。 ・校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において、「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答えた生徒の割合が75%に留まり、目標に5ポイント届かなかった。 ・校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば知らされている）」と答えた生徒の割合が88%に達し、目標を達成することができた。 ・校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目において、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答えた生徒の割合が80%に達し、目標を達成することができた。 	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて将来に対して夢や希望が持てる系統的なキャリア教育プログラムを開発し、実行する。ゲストティーチャーとして地域の人材を招聘するなど、生徒にとって親しみのもてる内容を加味していく。 ・教育相談体制を再構築し、担任はもとよりすべての教職員がカウンセリングマインドをもって生徒指導にのぞみ、いじめや校内暴力など学校生活上の困りごとについて「先生はすぐに対応してくれている」と生徒が実感できるよう工夫する。 	

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ○平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連) ○平成26年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)を取る生徒の割合を90%以上にする。(カリキュラム改革関連) ○平成26年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている(どちらかといえば図っている)」と答える教職員の割合を、100%にする。(ガバナンス改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力向上への支援】 望ましい運動習慣を身につけ、基礎体力の向上を図るようにする。(カリキュラム改革関連)	B
指標 毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を行う。	
取組内容②【食育】 成長期にある生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 月に1回以上、食育通信を配付する。	
取組内容③【健康な生活習慣の確立】 心身の健康に興味を持ち、自ら管理できる能力をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 年に10回以上、保健だよりを配付する。	
取組内容④【健康な生活習慣の確立】 家庭や地域とともに、子どもの健全育成を図る取組を推進する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)	B
指標 関係機関・保護者とともに薬物乱用防止教室を年に1回以上開催する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力・運動習慣等調査において、女子ハンドボール投げの記録は全国平均を上回ったものの男子は持久走、女子は長座体前屈の記録が全国平均を下回った。ただし体力合計点は大阪市平均・全国平均を上回った。 ・食育通信を計画通りに発行し、バランスのとれた食の大切さを身に付けさせる努力を重ねてきたが、校内アンケートにおける「お弁当や学校給食等、バランスのとれた昼食をとっていますか」の問いに対して、肯定的な回答をした生徒の割合が2年生の88%、3年生の80%を占めたのに対して、1年生は20%に留まった。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・自己評価における「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答えた教職員の割合が100%に達し、目標を達成することができた。 |
| 今後への改善点 |
| <ul style="list-style-type: none">・全国体力・運動能力・運動習慣等調査において、男子は持久走、女子は長座体前屈を含む全ての種目の記録ならびに体力合計点が、大阪市平均・全国平均を上回ることができるよう、校外を問わずスポーツに親しませることを通して、基礎体力の向上に努める。・今年度1年生から給食全員喫食制が導入されたことにともない家庭とあっそう緊密に連携しながら、食べ物の好き嫌いをなくすなど、さらなる食育の推進に努める。 |

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 教職員のICT活用能力の向上】 ○平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる(わりにできる・ややできる)」と答える教員の割合を100%にする。(マネジメント改革関連) ○平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる(わりにできる・ややできる)」と答える教員の割合を100%にする。(マネジメント改革関連) ○平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる(わりにできる・ややできる)」と答える教職員の割合を100%にする。(マネジメント改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【各種研究・研修の充実】 教職員のICT活用能力の向上のため、学校教育ICT支援員・授業づくり支援員の協力のもと、校内研修を充実させる。(マネジメント改革関連)	A
指標 全教員が、教材研究と併行してICT機器の使用方法を習得するなど校内研修に努める。	
取組内容②【公開授業の実施】 大阪市スタンダードモデルの確立に向け、授業を積極的に公開する。(マネジメント改革関連)	A
指標 全教員の半数以上が、ICTを活用した公開研究授業に取り組む。	
取組内容③【ICTを活用した教育の推進】 生徒にICT活用を指導する能力を高める。(マネジメント改革関連)	A
指標 ICTを活用し、生徒が主体的に発表する場を、複数の教科において設ける。	
取組内容④【組織運営】 校務の効率化・省力化を進め、教職員の負担の軽減を図る。(マネジメント改革関連)	B
指標 校務にICTを活用するための研修を、学期に1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業にICTを活用して指導する能力」「生徒にICT活用を指導する能力」「校務にICTを活用する能力」の各項目において、「できる(わりにできる・ややできる)」と答えた教職員の割合が100%に達し、全教職員が公開研究授業に取り組むこと通して研究と実践を積み重ね、学校教育ICT活用事業モデル校として、大阪市スタンダードモデルの確立に大きく貢献することができた。

今後への改善点

- ・「学校教育 ICT 活用事業」モデル校指定が終了した後も、整備された ICT 環境を有効に活用し、大阪市の ICT 教育を牽引する先駆的役割を果たしていく。
- ・ ICT 機器の保管体制を再構築し、管理を徹底する。
- ・校務の ICT 化をいっそう促進し、教員が生徒と向き合う時間の増加に努める。
- ・情報モラル教育を徹底し、主体的に必要な情報と不要な情報の取捨選択ができる生徒を育成する。

平成26年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに対して、肯定的な回答をした生徒の割合（56.2%）は、全国平均（46.6%）、大阪市平均（44.8%）を上回っており、授業の予習・復習に範囲を限らなければ家庭学習習慣は定着しており、問題はない。
- ・先生に相談しても無駄だと生徒が考えれば、いじめが表面化することはない。本校がいじめの実態や件数を正確に把握できているのは、生徒とのコミュニケーションが取れている証左である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【視点：学力の向上】

- ・小中一貫教育関連の指標の進捗状況がCということだが、ポイントは子どもたちの学力向上であり、会議の開催頻度ではない。理科専科に関する児童アンケート結果からも、学習指導の充実ぶりが伺え、小中連携は非常にうまく進んでいるといえる。
- ・学校元気アップ事務局主催の放課後学習会に参加する生徒は、学年進行にしたがい、学習方法の要諦をつかんでおり、自主学習習慣は着実に定着している。

※達成状況をBと評価したことは妥当である。

年度目標：【視点：道徳心・社会性の育成】

- ・いじめや不登校は、学校だけでは解決できない。地域や関係諸機関との連携を密にすることが重要である。
- ・校区やその周辺の不登校支援のNPO等とも、必要に応じて連携する必要がある。

※達成状況をBと評価したことは妥当である。

年度目標：【視点：健康・体力の保持増進】

- ・給食は、栄養バランスに最も配慮が行き届いた食事である。しかしながら、生徒の食べ残しが多くなると、せっかくの栄養バランスも効果がない。メニューの改善など美味しい食材の提供を学校協議会として引き続き求めていく。

※達成状況をBと評価したことは妥当である。

3 今後の学校運営についての意見

- ・苗代小学校は進学する中学校区が3つに分かれている。保護者・児童は、小学校に在学する6年間に進学する中学校に関する様々な情報を蓄積している。阿倍野区が学校選択制の導入に踏み切った今、苗代小学校を卒業する児童の選択動向は、まさに学校選択制の縮図といえるものである。各中学校が切磋琢磨して、魅力ある学校づくりに取り組んでもらいたい。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成 25 年度の調査結果の概要

区分	結果
① 暴力行為の発生件数(件)	1
② いじめの認知件数(件)	1
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100%
④ 中学校における不登校児童生徒数(人)	3
⑤ 等学校における長期欠席生徒数(人)	—
⑥ 等学校における中途退学者数(人)	—

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	平成 25 年度は生徒間暴力事案が 1 件発生したが、教職員による当該生徒への指導を経て現在は収束している。引き続き、家庭・地域・関係諸機関と連携しながら、生活指導部を中心に、全教職員が問題行動に機敏かつ組織的に対応できる体制の維持に努める。
② いじめの状況等	平成 25 年度は、いじめ事案が 1 件発生したが、教職員による当該生徒への指導を経て現在は収束している。いじめはどの学校でも起こる可能性があるという自覚のもと、全教職員が、いじめを見抜く鋭敏な感覚を身につけることができるよう、指導力の向上に努める。
③ 小・中学校における不登校の状況等	欠席しがちな生徒については、校外学習や学校行事、定期テスト等の機会をとらえて、担任を中心に丁寧に働きかけ、登校を促している。また全く登校できていない生徒については、子ども相談センターや区の子育て支援室と連携し、家族関係のあり方の改善も視野に入れた指導と支援に注力している。
④ 高等学校における長期欠席の状況等	
⑦ 高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること